

『パリオリンピックを振り返って…』

校長 関 勝 志

パリオリンピックが開催されました。206の国・地域と難民選手団を合わせて約10,500人の選手が集まり、競い合いました。日本は45個（金20、銀12、銅13）のメダルを獲得しました。

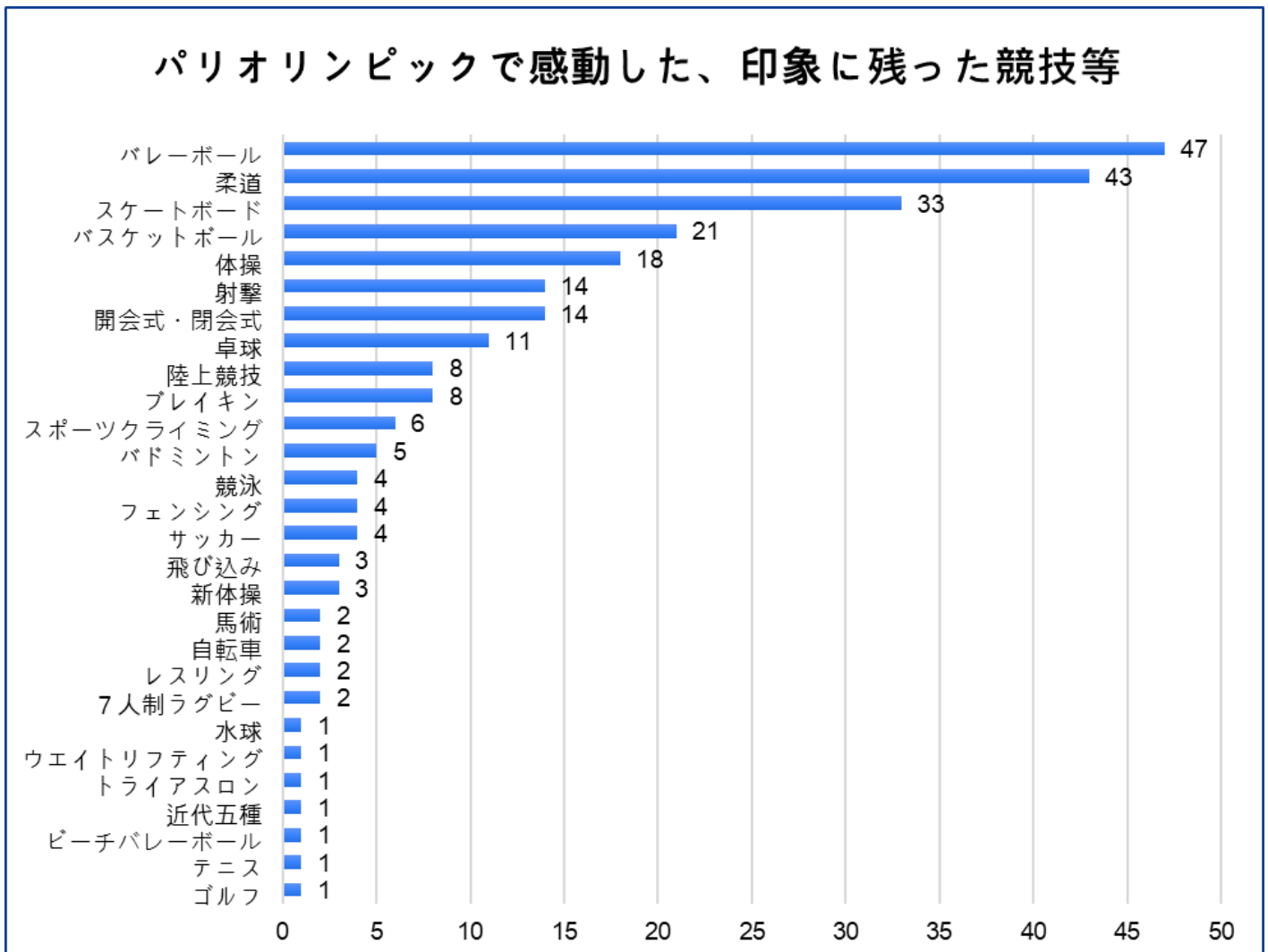
感動的な場面がたくさんありましたが、私が一番印象に残ったのは、体操競技の男子団体で、日本が中国と接戦の末、大逆転で金メダルを獲得した場面です。日本選手の素晴らしい演技は言うまでもありませんが、「思いもよらないことが起こった」「諦めてはいけない」という意味での驚きがありました。

また、メダルや勝敗とは違った感動もありました。それは、ビーチバレー女子決勝のブラジル組とカナダ組の試合での出来事です。白熱した試合中、突然、ネットを挟んで選手同士の罵り合いが始まりました。怒りを滲ませた表情で言葉をぶつけ合う一触即発の事態に、審判が間に入って何度も笛を鳴らしてプレーに戻るよう促しても一向に収まりません。両チームにイエローカードが出され、場内に不穏な空気が漂った、そのときです。ある音楽が流れました。かつて世界で活躍したミュージシャン、ジョン・レノン（ビートルズ）の「Imagine（イマジン）」という曲です。「愛と平和」の歌として世界中で親しまれています。すると、この曲を聞いた選手たちの表情が一気に和らぎ、観客もメロディーに乗せて大合唱しました。そして、選手たちは落ち着きを取り戻し、試合が再開されました。DJのフラインプレーでした。

古代オリンピックが途絶えてから1500年の時を経て、1896年にギリシャのアテネでオリンピックを復活させたのは、「近代オリンピックの父」と呼ばれるフランスのピエール・ド・クーベルタン男爵という人物です。そのクーベルタンが提唱したオリンピックのあるべき姿（オリンピズム）は、「スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」というものです。オリンピックが最も大切にしているのは『平和』です。「Imagine」という曲がそのことに気付かせてくれたのです。

☆☆☆ パリオリンピックを振り返って（生徒アンケート） ☆☆☆

日本とパリでは時差があるため、パリオリンピックをLIVEで観ることは難しく、東京2020に比べるとテレビ等で観戦した人は少なかったようです。それでも、こどもたちは感動し、様々なことを学びました。こどもたちの感想です。



【バレーボール】

- ・高くジャンプしてブロックやスパイクするところが特に心に残った。
- ・仲間とのコミュニケーションや信頼が上を目指すためには何よりも大切であるということ。
- ・ボールを一生懸命つなげているところがカッコよかった。
- ・得点を取ったり取られたりして接戦だったところで最後まで諦めない姿が印象的かったです。
- ・接戦のときに日本が逆転したときに少し感動した。
- ・勝敗を予想するのが楽しかった。
- ・試合後におたがいを慰めていたところ
- ・自分がバレーボールを前から見ていて、一番応援していたのが高橋蘭選手と石川祐希選手だったんですが、オリンピックを見て小川選手などがアンダーで拾っていた姿を見てカッコいいなと思いました。
- ・2セット取っていたけど、相手が勝ったから。大きい差がついていても諦めるのではなく、全力で食らいつけばそれをこすことができることを学んだ。
- ・今回のオリンピックはほとんど見ていなくて、唯一見たバレーボールで仲間と一致団結してパスを繋ぎ得点を決めるという姿に感動した。
- ・アルゼンチン戦が熱かった。
- ・イタリアとの試合のときに、イタリアに責められている中でキャプテンの石川祐希選手は、自分のことを第一にするのではなく、仲間を第一に考えて仲間に声掛けをしてはげましている姿が感動しました。
- ・男子バレーボールがあと一点のために全員が諦めないでボールを繋いでいるところに感動した。
- ・日本人の選手は海外の選手と比べても体格の差が大きいのに、一生懸命ボールをつないで、海外選手を圧倒している場面もあって、日本人選手一人一人の努力がにじみ出ていてすごいと思った。誰かに勝つために全力で頑張る姿勢を見習いたいと思った。
- ・バレーボールのすばらしさを感じました。力強いサーブやトスのコントロール技術が本当にすごいと思いました。特にこの場面がすごいなと思ったことはなく、たんと試合が進んでいくのがわくわくしました。見たのはテレビ越しでも、自国を背負って戦う選手たちのプレーは本当にきれいで、すごくて、迫力があるのがわかりました。またみたいです。
- ・バレーは1点差で負けてしまってすごく悔しそうなのを見て、私は本気でやったことは負けてしまったときとても辛いことがわかった。
- ・フランス戦でストレートで勝てそうだったのに最後にフランスに取られて終わったので、とても印象に残っています
- ・男子のバレーボールで、普段あまりサーブが入らない選手が大事な場面でサーブ得点を決めていたときにとてもカッコいいと感じた。
- ・私はバレーボール男子に感動しました。試合の中であと1歩あと1点というところで負けてしまいました。でも選手のがんばりはよく伝わってきました。
- ・最初は1ゲーム取っていたのに逆転されて負けてしまった時があったけれど、最後まであきらめずに戦っていて、すごいと思いました。サーブを打つときに失敗したときも、次は自分が失敗した点を取り返しているところが、やっぱりオリンピックに出る選手なんだなと改めてすごいと思ったし流石だなと思いました。
- ・私がオリンピックを見て感じたのは「誤審めっちゃ多い」でした。私は今大会女子バレーボールしか見ていないので知っていることはニュースやインターネットなどの情報だけになってしまいますが、それでも誤審が多いということが耳に入るほど今大会は誤審が多いのだなと感じました。
- ・古賀選手の引退試合になった試合で、「キャプテンの私じゃなくて、バレーボールが大好きな古賀紗理那として戦いました。」という言葉に感動した。
- ・どの場面というか全体で、セッターやリベロ、ミドルブロッカーがそれぞれの動きを予測しながら相手の攻撃を受け止めつつパスをつなげるのがすごいと思いました。
- ・バレーボールは今まで一番強いメンバーで、強い国に勝ったり、多くの感動と多くの喜びを僕たちに見せてくれてとても感動した。でも残念だったのはイタリア戦であと一点取れば勝っていたところから逆転され、負けたというのが一番悲しかったです
- ・あまり勝つことができなかったけど、難しそうなおもちゃボールもしっかりレシーブしていてすごいと思った。点をとってとりかえされてを繰り返して疲れているのに諦めずにくいついていてカッコよかった。
- ・バレーボールで最初の方にセットを取っていたけど最後の方で逆転されて負けてしまったところ、175cmくらいの日本代表のセッターが2mくらいの選手のスパイクを一人でブロックをして止めたところでした。

・取って取られての試合で、結局最後は負けてしまったけれど、全力でやって、誰かが取れなかったものをカバーして、バレーボールは感動と白熱が起きるものだと思います。

・バレーボールでは選手全員が最後まで諦めず相手に立ち向かう姿勢が心に残りました。負けてしまったけど、このようにあきらめず戦い続ける選手たちが見れてよかったです。

・サーブやスパイクを打つときなどに決めるときは決めて、レシーブなどもセッターの方に正確にかえっていたり、白熱した試合が何度も続き、とてもすごいことだと思います。

・バレーボール男子の日本とイタリアとの対戦で、最初はどちらの国も強いからどちらが勝ってもおかしくないと思って観ていましたが、イタリアに逆転勝ちされたときは自分までも悔しくなりました。それまでの戦いが接戦で観ていて楽しかったです。

・早く動いていてすごかったです。

・バレーボールでは、なんとか決勝トーナメントに進んだものの、あと一步のところまで負けてしまった。しかし、最後まで諦めずにボールを繋いで得点を稼ぎ団結している姿を見て感動した。何事も最後まで諦めずに一生懸命に取り組むことが大切だと改めて実感することができた。

・家族みんなバレーボールが好きで、僕はそんなに好きではないのですが、僕が印象に残っているのは西田の26得点です。1セット25点なので一人で1セット取るぐらいの点を取ったのでそれが印象に残りました。

・男子バレーではメダルを目指してオリンピックに挑みました。しかし、一試合目ではなかなか日本のプレーを見せつけることができず苦戦しました。それでもたくさんの選手が名プレーをしてきて会場はとても盛り上がりました。一番感動したのは、オリンピック最後の試合でした。今回で男子バレーボールの監督をしているブラン監督は最後でした。選手たちは涙を流していました。その姿を見て絆の強さと団結することの大切さを感じました。

・バレーボールの決勝トーナメントの第一戦で日本が2セット先取し、あと1セット、あと1点で勝てるというときに石川祐希選手のスパイクがなかなか決まらず、惜しくも負けてしまったというところがとても悲しく、けれど頑張ってる姿にとても感動した。

・自分あんまりバレーボールを自分から見ようとは今までしてなかったけど、予選の試合やテストマッチをテレビなどで見て、世界ランク1位に勝ったり選手一人一人の気持ちの熱さが伝わって感動した。

・日本対イタリアの試合で、強豪相手に日本チームが本当に壮絶な接戦を繰り広げていたことに感動した。最終セットのデューズまで持ち込み、一球一球プレッシャーのかかる中で、選手が全力でプレーしていたことに感動した。負けてしまったあとも、イタリアの選手と握手を交わし健闘を称え合っていて感動した。

・点差が開いても挫けることなく、諦めずに点を取りに行っているところがかっこいいと思った。でも、日本の選手がこんなことをできたのは、やっぱり努力の積み重ねがあったからだと思った。自分も努力を積み重ねていこうと思った。

・得点を決めたときの盛り上がりや負けている状況から逆転したとき、相手の攻撃を受けてもボールがあがったときなど、応援している人も楽しめて盛り上げられるスポーツだなと改めて感じました。

・ピンチのときもみんなで声を掛け合っていて冷静ですごいと思った。負けたあとも観客にお礼を言っていてさすが日本代表だと思った。

・イタリア戦で2セットリードしている中、逆転されフルセットまでいったが結局負けてしまい多くの選手が涙しているところを見て感動した。ブラン監督や日本代表を降る選手など最後のオリンピックだった人もいます感動した。

・男子バレーの試合で1、2セット取れていたのに、その後3、4セットを取られてしまっても、最後まで頑張ってる姿を見ていて、ボールを追ってコートに倒れる姿に感動した。

【柔道】

・諦めずに正々堂々と戦っていたから。

・選手に迫力がありかっこよかった。

・阿部詩選手が負けてしまった戦いで、観客の励ましのコールがすごいと思った。また、兄の一二三選手が二大会連続で一位をとったこともとても感動した。

・柔道を見て感じたことは、阿部兄弟でオリンピック2連覇を達成するという目標で阿部詩選手がメダルを取れなかったけど、兄の阿部一二三選手がかたきを取って、メダルを取って兄が2連覇したのが感動しました。

・日本女子柔道を見て私は感動しました。優勝候補であった阿部詩（妹）選手が決勝に進出することができずに、涙を流した。その思いを背負い戦う兄の阿部一二三選手。彼の兄として妹の分まで頑張る姿にとっても感動しました。

・阿部詩選手が2回戦で負けてしまって、阿部一二三選手が敵を取るために金メダルを取ったのが感動しました。

・阿部詩選手が負けて泣き崩れているとき、その会場にいた日本人だけではなく外国人からも「詩、詩・・・」と詩コールをして励ましている場面を見て、感動した。

・なぜ審判はあのようなミスをしてしまったのか。

・試合を見ていて、日本選手は他の国の選手に比べて、相手選手への尊敬の気持ちや正々堂々戦おうという思いがすごく伝わってきて、日本らしい柔道をしているのがかっこいいなと思った。日本選手に対する誤審もあったりしたが、選手たち同士にはスポーツマンシップを感じてオリンピックならではの感動があった。

・前回のオリンピックで優勝した兄妹の方が今年も出て、妹さんの方は負けてしまったけれど、お兄さんの方はそれを見て決意を新たにして優勝し、妹さんもお兄さんを応援していて感動しました。

・大逆転などがあって、とても迫力がありました。

・柔道の永瀬が決勝で技ありとかではなくしっかり一本取って勝ったのがかっこよかった。

・阿部一二三の鼻血で2回目の治療になったときに勝てるかなと思った。あと、団体の決勝のルーレットは「やってるわ」と思った。

・団体戦のときに最後の最後で相手の国のほうが有利な級になり、周りが絶望的な状況になっても最後まで日本代表として精一杯戦っている選手たちの背中がすごく広く見えたところです。

・私は、パリオリンピックで柔道が一番印象に残りました。なかでも柔道混合団体は、最後まであきらめずに戦っていて、素晴らしいと思いました。決勝の相手が開催国フランスでアウェイな雰囲気でも、互角な戦いをしていてすごいなと思いました。

・阿部一二三選手が、妹の詩選手の分も背負って金メダルを取ったところ。兄妹を思いやる心が金メダルを首にさげた映像に滲み出るように感じ、感動した。

・阿部詩選手が負けてしまっていて、とても泣いている場面があった。その場面を見てこの4年間どれだけ努力をしてきていたのかがわかった。努力をしたからこそとても悔しいんだと思った。自分も剣道をやっていて試合がたくさんある。今も負けると「悔しい!」と思うけど、これから練習をとて頑張るって「めっちゃ悔しい!」と思えるように努力していきたいなと思った。阿部詩選手の試合を見て「頑張ろう」という気持ちと、「すごいな」(頑張ったから泣けること)という気持ちが混ざっていた。

・柔道女子の第3回戦で阿部詩選手が負けてしまったときに詩選手が泣き崩れた場面で、観客が詩選手にエールを送っていて、選手を応援する気持には国境はないんだなと感じた。

・阿部一二三選手の試合と同じ日に予想していなかった妹の阿部詩選手の敗戦という結果がかぶり、ともに金メダルを取るという目標を掲げていたため、ダメージが大きかったはずなのに、最後まで集中して金メダルを取った場面にとて感動しました。

・阿部一二三選手が競技中に脱臼をしたり出血をしてしまい、あと一回で強制的に終了になってしまうという瀬戸際でも、妹の思いや家族への思いも込めて金メダルを取った瞬間が心に残りました。このオリンピックのために多くの選手が4年間一生懸命練習をしてきて、沢山の人の感動と勇気を与えてくれたのでその姿を見て、私も受験に向けて頑張ろうと思いました。諦めなければいつかきっと夢は叶うんだなと思いました。

・柔道で男子の部で阿部一二三選手が金メダルを取った場面でどれだけ金メダルを取ることは難しいかということを感じました。一二三選手の妹さん(阿部詩選手)の分まで金メダルを取ってくるということで兄妹愛をとて感じました。

・個人戦で敗れてしまって数日後の柔道団体戦でルーレットにより90キロ超級になり、斉藤立が日本中の思いを背中にのせて強豪フランスの英雄ティ・リネールとの直接対決の熱い死闘のすえ敗れてしまったあとの涙が、お父さんとの金メダルを取るという約束が果たせなかったときの場面で、プロの世界の厳しさなどが伝わってきたのと、まだ23歳なので4年後のロサンゼルス大会リベンジしてほしいという気持ちになりました。

・阿部一二三が勝った瞬間。

・阿部詩選手が負けてしまったけど、阿部一二三選手が妹の分まで頑張っていて感動しました。

・阿部一二三と阿部詩選手がオリンピックに出場して阿部詩選手が負けてしまったけれど兄の阿部一二三選手が妹の敵を取って金メダルを獲得していたのが兄弟愛を感じた。

・阿部一二三選手が相手に沢山技を出していてすごかったです。

・阿部一二三が金メダルをとったとき、妹が観覧席で泣いている姿をみて兄が勝った嬉しさと兄妹連覇を果たせなかった悔しさの2つの感情を感じた。それだけ今までたくさん練習して努力してきたことが分かった。

・日本選手が負けてしまっても、感情を大きくあらわにせず、柔道の心得に忠実な姿がとて心に残りました。インタビューでも自分が足りなかった、次に向けて全力を尽くす等といった、前向きな言葉を話していて自分もこうなれたらなと思いました。

・どちらかの選手が負けたときに悔しい気持ちもあると思うけど、先に礼をするのが武道を大切にしているなと思った。

・阿部一二三選手の圧倒的強さから日本の柔道で金メダルを取ろうという覚悟や、相手に絶対に勝つといったような気迫が感じられた。更に阿部選手の「試合は全て一本勝ちします」といったときの自分の実力を信じているというような発言がとても凄かった。

・阿部詩選手が負けてしまった場面が印象に残っていて、負けてしまったあとに会場の人々が選手に向けて拍手や名前のコールなどをして、選手をたたえていて、人々の暖かさを感じて、自分もそういう事ができるようになれば良いなと見ていて感じました。

・兄妹で出場していた選手で妹さんがはやくに負けてしまって、お兄さんの試合のときに「妹の分まで勝つ」といい、優勝してメダルを獲得していたところで兄弟愛を感じたし、お兄さんのつよさや、やさしさに感動しました。

・試合に勝ったとしても畳を降りるまで日本人選手は喜んでいなく、最後まで柔道をやっていてとてもいいなと思いました。

・柔道を見て、負けてしまったけれど、皆さんとてもかっこよかったです。最後の代表戦も、負けてしまった選手を拍手してたたえていてとても美しいなと思いました。

・懸命に頑張っている姿に勇気をもらいました。

・どの種目も感動したけれど特に柔道は感動した。団体戦で他の選手が戦っているときにチームメイトが力強い眼差しで試合を見守り、次の選手と交代するときには背中を叩いてバトンを繋ぐような姿がとてもかっこよかった。言葉がなくても眼差しや行動でこれだけの強い気持ちが伝わるのだなと強く感じた。

・阿部詩選手が負けてしまったあと涙を流しなから悔しそうな表情をしている姿が、私まですごく悔しくなったし、こんなに泣ける詩選手もかっこいいと思った。その後、一二三選手が詩選手の思いも背負って、金メダルを取る姿が兄妹としても柔道の選手としてもかっこいいなと思った。

・誤審があっても文句を言わず正々堂々としてるところがとてもかっこよかった。そして一番感動した場面は阿部一二三選手の華麗な技を見たときです。その前に妹の阿部詩選手の試合があったからなのかもしれません。

・阿部詩さんが負けてしまったあとにとっても泣いていてオリンピックなどの大会は何が起こるかわからないなと思い、勝負の世界はとても難しいなと思った。

・阿部詩さんが初めの方に負けてしまったところです。コーチが励ましているところに感動しました。ミスは誰にでもであると改めて実感しました。次は勝ってほしいです！

・柔道男子の阿部一二三選手が金メダルを取ったときが一番印象に残りました。2連覇を達成していて、驚いたり感動しました。

・阿部詩選手が負けてしまい泣き崩れる場面で、4年に一度のあの日にすべてをかけて頑張ってきたけれど負けてしまった、有名になりプレッシャーも大きい中で頑張っていた阿部選手の心情を考えるともらい泣きしてしまいました。それだけでなく、ないてしまった阿部選手に対して観客席からのあたたかい声援にも感動しました。

・柔道の、阿部詩選手が一回戦で負けてしまい、子供のように涙を流していました。スポーツでこんなに泣けるなんて、今まで本気で頑張ってきたんだなと思った。そのあと、詩選手の兄の阿部一二三選手が、妹の代わりにメダルを取っていて家族はやっぱり良いなと思った！

【スケートボード】

・堀米雄斗さんが逆転金メダルして、すごく印象に残っています。

・堀米選手が一位になるには高得点を出さなきゃいけないとき、最後に高得点技を決めたところが印象に残りました。

・堀米選手の最後の最後で大技を決めて金メダルを取ったシーンと、吉沢選手の金メダルを取ったシーンの実況で「金メダルに恋した14歳」というフレーズにぴったりな笑顔がすごく記憶に残っています。私もこれからは、努力を続けていこうという気持ちにさせてくれた笑顔でした！

・堀米雄斗選手が最後に絶体絶命の場面で諦めずに大技を成功させたところがすごいメンタルだと思った。

・女子スケートボードで、誰もできなかった技で最後に吉沢恋選手が技を決めて、見事に一位に逆転したこと。女子スケボーで、一位と二位に日本人スケボー選手がランクインしたこと。

・自分と同じぐらいの歳の子が金メダルをとっててほんとにすごいなと思いました。インタビューでは「テレビで見ていた技が公園でいつもやっていた技だった」と言っていて元々の才能がありながらそれを活かして努力して結果を出していたところに感動した。

・女子で入賞された方は私達中学生とほぼ同じ年齢で、小さい頃から努力してきたということがメダルに出ていて感動した。もともとその競技が得意だったのかもしれないけど、絶対に努力してきたんだろうなということがテレビから伝わって、すごいなと思った。

・オリンピックの選手は、スケートボードでも他の競技でも、決めるときはちゃんと決めるんだなと思いました。スケートボードでは、私達と同じくらいの年齢の人が金メダルを取っていたので、とてもすごいと思いました。

・スケートボード男子ストリートで金メダルを取った堀米雄斗選手が決勝に進み、技に挑戦していたとき、5回ある中の1回目で一つ成功して、もう一つ成功したらメダルを取れそうな場面があった。でもそのあと同じ技を3回連続で失敗してしまった。残り1回で決めないと金メダルは取れない場面で技を成功させて大逆転で優勝した。応援していた選手が優勝してとても嬉しかったし、ラスト一回の場面で決めきって高得点がとれるところがとてもすごいと思った。

・男子スケートボードの堀米雄斗選手に感動しました。場面は決勝、堀米選手の最後のトリックで優勝するには97点を取らなければならない場面で決めきったその力と努力に心打たれました。あきらめなければ絶対に勝てる夢は叶うんだと思いました。

・自分と同世代の人が金メダルを取っているのを見てすごいなと思いました。

・堀米雄斗選手のストリートの決勝で5回中4回失敗していたのにプレッシャーに負けず、ベストトリックを成功させていてすごいなと思いました。後に話していた「可能性が1%でもあるならやろう」という言葉がとても印象に残ったので、私も悔いの無いように努力しようと思いました。

・スケートボードの男子ストリート決勝で、堀米雄斗選手が最後の技を見事に決めて金メダルを取ったところが本当にすごくて感動したし、最後の追い詰められている場面でしっかり決めるところもすごいと思いました。

・私はスケートボード男子で2連覇を果たした堀米選手のトリックが印象に残っています。堀米選手は、1回目のトリックが成功してから4回目のトリックまで失敗が続き、5回目のトリックで決めなければ金メダルを逃してしまうというプレッシャーが大きい場面で、今大会最高得点の97.08を叩き出し逆転優勝しました。日本では真夜中に決勝が行われていたのでリアルタイムでは観戦できませんでしたが、私は東京五輪の決勝も家族で観戦していたので、結果を見たときはとても嬉しかったです。

・今回のオリンピックで印象に残ったのは、男子スケートボードの堀米雄斗選手です。堀米選手は、一発勝負のベストトリックで最初の一回で高得点をマークするも、のち3回を失敗し、私は勝てないんじゃないかと思いました。ですが堀米選手は、最後の五回目で一発逆転の大技を成功させ、2連覇しました。堀米選手の最後まであきらめない姿を見て、あきらめないことは、練習や試合をする上で、大切だと感じました。

・逆転金を取り、諦めないことって大事だなと思った。

・堀米の優勝が決まったとき。

・自分とおなじくらいの年齢の人も参加していてすごいなと思った。

・得点の取り合いになってトップだったり3位だったりしたが、そんな状態でも平常心を保って最高のパフォーマンスができるようにと頑張っている姿に感動した。

・最後のところで逆転を見せてくれたところです。あと一回のところで逆転を見せてくれたので感動しました。

・自分と同じくらいの歳の子が努力して金メダルを獲得しているのを見て、勇気をもらいました。

・堀米くんの逆転優勝するところにとっても感動した。また50歳近くのおじさんもオリンピックに出ておりスポーツをするのに年齢は関係ないことがわかった。

・スケートボードのストリートの男子決勝で日本の選手が最後まで高難易度の技で粘って5回目の最後のベストトリックできめて逆転優勝したのが印象に残ってます。

・男子決勝で堀米雄斗選手が97点を取らないと金メダルを獲得できない場面で見事に97点以上を取ったこと。家族でも「今年は無理かあ」と言っていたので衝撃の大きさはすごかったです。

・14歳でメダルを取ってしかも金メダルを取っていたところに感動しました。

・堀米雄斗選手が、2、3、4回目のベストトリックは、失敗してしまっただけで、5回目のベストトリックで、成功し、97.07点を叩き出して、二回連続金メダルは、とてもすごいなと思いました。

・私は女子の個人戦をみていました。予選で選手の失敗もありましたが、すごい技を次々次々と見せてくれて迫力がありませんでした。決勝では吉沢恋選手が失敗を連続で見せていて、とてもはらはらする場面がありましたが、大技を連続でこなし見事高得点、金メダルを手にしていて見ているだけでも楽しかったです。

・難しい技を決めた選手方を見て、私も受験を頑張ろう！と改めて思うことができました。

・みんな全力で勝つためにプレーをしていることがよくわかった。特に日本の選手はとても礼儀が正しく負けてもコート上では感情を抑えているところが流石だと思った。

・オリンピックというおそらく世界で一番有名でプレッシャーもものすごくかかるであろう舞台上で自分と同じくらいの人々がで実際に活躍しているのを見て、中学生だからといって甘えるのではなく、今のうちから自分の特技や好きなことを磨いているのがすごいと思いました。

・スケートボードの堀米雄斗選手が大差で負けていたのに、最後の演技で高得点を出して、逆転勝利した時が一番感動しました。

【バスケットボール】

・選手たちが負けそうになっても、最後まで力を出し切っていることがテレビ越しに伝わってきて僕もあきらめないような選手になりたいと思いました。試合は審判に合わせないといけないけど、河村選手は審判にファウルを取られたときどんなことを思っていたのかも気になりました。

・男子バスケットで負けてしまったけど最後まで諦めなかったところ。

・アメリカ代表強すぎた。

・僕はバスケット部なので、バスケットボールで選手たちが一生懸命に戦っているところを見て勇気がもらえました。

・日本とフランス戦で第4Qの残り時間が少ない場面で94対90で日本がリードしている中、河村勇輝選手がファウルをしてしまって、3Pが決まりバスケットカウントが決まり、フリースローも決められて、94対94で同点になり延長線の末敗れた場面がとっても印象に残っています。最後の河村選手のファウルは誤審だとネットでつぶやかれています、それでも世界で強豪のフランス相手によく食らいついたと思います。

・負けていても勝っていても全力でやる場面に感動した。自分の部活の競技なのでいつでも全力で頑張ろうと思った。

・八村選手がアンスポーツマンライクファウルを二度取られ退場になってしまったあとの重い雰囲気からの、日本の粘り強さが心に残っています。このフランス戦で感じたことは、日本のバスケットが世界に通用することを知り、まだまだ自分も高校でバスケットを続けようという勇気をもらいました。

・男子日本代表のフランス戦です。フランスに有利な笛が多くて、特に4Qの最後の4点プレーは意図的に仕掛けられた奇跡であり誰も喜ばない笛だったなと思いました。

・バスケットボールのフランス戦で、最大の誤審があって、tiktokなどで話題になっていたから、僕自身も録画で見てみたら、確かにファウルじゃないのにファウルになっていてびっくりした。それと久々にアメリカが勝っていたので驚いた。

・最後のスリーポイントシュートのチェックでファウルを取られてバスケットカウントのフリースローを決められるなどから流れを完全に持っていかれてしまい健闘むなしく初戦から敗退してしまったことに、自分は「ノーファウル」と考えて審判に不満を持っていたが、当選手である河村勇輝選手の審判の判定にも屈せず戦い抜く姿勢に心を動かされた。

・八村の怪我が悲しかったです。世界で活躍する八村をもっと見たかったです。

・1人ですべてやってるんじゃなく、みんなでボールを運んでいるのがとてもいいともいえました。

・どんな強いものと戦おうとしているときでも、ちゃんと頑張れば乗り越えられることがわかった。

・勝てると思っていたのに最後の最後に逆転されて負けてしまったこと。確実に強くなっているのもっと上に行けると思った。決勝のアメリカ対フランスもレベルが違いすぎて面白かった。

・フランス戦で日本が最後に河村選手が3ポイントを決めてファウルをもらいリードを取っていて、最後は負けたけど世界と戦えるようになったこと。

・他国から、試合をする前からイージーゲームだとかいろいろ言われていたが、フランスとの試合では全員が最後の一秒まで諦めた姿勢を見せず全力でプレーしていた。ヤブセシのレブロンへのポストダンクがすごかった。

・男子バスケットボールで印象に残ったのは一回日本が勝っていたところ。日本は、2~4点差くらいで負けていました。だけど、そこから点数を上げて行って勝っていたのですごいと思いました。

・3ポイントシュートに感動。入るかわからないようなところから入れてくるのですごいと思った。

・女子のバスケットは強豪のアメリカと戦った際に点差をつけられてやられてしまっていたけれど、諦めず最後まで試合をやりきっていたことに感動しました。

・試合で負けていても「絶対勝つ」という雰囲気がチーム内にあって、最後まで全力でやりきった姿勢が良いと思いました。その姿勢をこれからの部活動に活かせるといいなと思いました。また、相手チームの健闘も称えられることが良いと思いました。

【体操】

・仲間で励まし合って、諦めないで戦っていてすごいなと思いました。

・日本が大逆転で金メダルを勝ち取った場面で、「諦めないこと」の大切さを感じました。最後まで自分たちのできる精一杯の努力をすれば、必ずと言っていいほど結果がついてくるのが目に見えて感じました。自分の普段の学習、部活動にこの場面から学んだものをつなげていきたいです。

・岡慎之介さんの体操を旅行先のホテルで家族みんなで見て、家族で綺麗な体操を応援することが出来て楽しかった。

・ライバルの中国にギリギリのところまで逆転して勝ったのが印象に残りました。

・失敗しても責めたりしていないことがいいチームだなと感じた。

・杉野正堯選手・谷川航選手・岡慎之助選手・菅和磨選手がベストを出し切った中で中国に負けてしまっていたけど、最後の橋本大輝選手が諦めずにやったことで中国にミスが出て、逆転勝ちできたから。

・途中で一人の選手が技で失敗をしてしまったけれど、諦めずにみんなで励まし合い最後まで一生懸命競技に取り組んでいたから。

・体操男子団体決勝で逆転勝ちしたこと。

・男子団体で日本のエースのミスが続き危機的状況の中、チームメイト同士で声を掛け合って最終的に全員で協力して金メダルを取った姿に感動した。人は協力し繋いできたのだと改めて感じさせられた。

・最後の逆転する場面では、どんなに絶望しても、諦めないことの大切さを感じました。

・岡選手が若いのにたくさんメダルを取っていてすごいと思った。そして、橋本選手がメダルを取れずに悔しいはずなのに、岡選手のメダルを喜んでいて感動しました。

・体操の団体で橋本選手が失敗してしまい中国に負けていたけど、切り替えて自分で高得点を出して逆転し、優勝したところが団結力が高いと思った。ミスをしてチームメイトが励ましていてかっよかった。

・体操団体が特に心に残りました。中国に負けてしまっていたけど、最後の種目の鉄棒で橋本選手が素晴らしい演技をして、喜びあったりしている姿がとても素敵だと思いました。個人でもライバルである岡選手にすぐ橋本選手が駆けつけていき素敵なお関係だと言うことがすごく伝わってきました。

・体操は中国が強くてライバル関係にあって今年も団体で日本と中国での決勝になったときに、中国のミスで日本が勝って、相手はすごく悔しいだろうなという思いと嬉しい気持ちがありました。

・団体戦で選手が日頃たくさん努力をしてパリオリンピックに挑んだことが伝わり、選手たちは金メダルを目指して突き進んでいたんだなと感じました。諦めずに挑戦し金メダルを取ったことを尊敬しました。自分もなにか目標を作ってくじけず頑張ってみたいなと感じました！！

・日本が途中まで劣勢だったにも関わらず、最後まで諦めずにベストを尽くして金メダルを獲ったことがとても印象に残り、何事にもあきらめないことが大切だと思った。

・菅和磨キャプテンや橋本大輝選手等の活躍に感動しました。

・観客の人や相手選手は日本が負けると思っていたけど、日本の選手の人たちは諦めずに頑張っていて優勝してすごいと思った。

【開会式・閉会式】

・パリオリンピックをするためには沢山の人が必要で、さらにお金もかかるということがわかった。選手だけでなく観客も色々な思いをしているということも感じました。

・SNSで開会式が話題になっていることで印象に残った。最後の晚餐のセルフオマージュをするところがよく印象に残った。

・トム・クルーズが出演していて、次のオリンピックへの引き継ぎが表されていて国同士の繋がりが感じられ、面白かったです。

・開会式のパフォーマンスで障がい者に対する考え方を改めないといけないということを感じました。

・聖火が灯されて、気球で上がっていくことが印象的でした。最初から「気球かな？」とは思っていましたが、最後に火が灯されて、とても明るく、パリの地を上がっていく気球を見て、「こんな形で気球が上がっていくんだー」とすごくきれいで心の中で感動しました。

・聖火リレーでは、オリンピックを盛り上げた歴代の選手たちが聖火を運んでいて感動した。

・すごく派手な感じだった。

・開会式、あれは独特の「フランスらしさ」が良くも悪くも出ていると思う。フランス革命で処刑されたマリー・アントワネットをイメージしたのか、生首を持って、赤いスモークを焚いてる演出があったり、明らかに「最後の晚餐」をイメージした演出があったりと、良くも悪くも本当に「独特」だった。

・みんなが一つになっていて楽しそうだった。

・開会式のときに、パリ全体を使って表現をしていてよかった。

・私が尊敬しているフランスのインフルエンサーが聖火ランナーとして出ていたことに、改めてその人がいかに有名なのかを感じました。

・セー又川から選手が入場してくる場面がとても感動しました。

・日本のオリンピックの開会式とは全然違って、川を船で移動する方法が珍しくておもしろいと思いました。個人的にはミニオンのアニメが可愛くて面白かったです。

・すごくダイナミックでインパクトがある開会式だったと思った。

【射撃】

・無課金おじさんが居たから。

・通称「無課金おじさん」と呼ばれている人が、装備を使わずに銀メダルを取り、お金をかければよいということじゃないということが心に残った。

・しゃげきで不装備で勝った。

・かっこいいなと思った。

・「無課金おじさん」など個性的な選手が沢山集まっていて面白かった。そして競技も非常に見応えがあり、金メダルの選手の射撃にはついつい見惚れてしまうほどだった。何から何まで魅力的な、最高の競技だったと思う。

・難しそうな射撃ですが、次々と的に当てていく姿をととても尊敬しました。1つのことを極めた姿はとてまかっこいいです。私も1つのことに全力をそそげるような人になりたいです。

・無課金おじさんの片手で高得点を出していたのがすごく、印象に残っています。

・射撃を観戦して、様々な国々の人が射撃の腕を争って競う場面が迫力的でした。特に一般では顔に様々なパーツをつけている中、あるトルコ選手がパーツを付けずに射撃を行っており、結果そのトルコ選手が2位という記録を残しました。私はかなり印象に残りました。

・無課金おじさんという愛称で親しまれてる強キャラ感半端ない人の試合を偶然見てただけで、相手の無課金おじさんの銃が無課金おじさんの2世代前のものだと知った時。すごく熱かった。

・私はオリンピックの射撃を見逃し配信で見ていたのですが、ユスフ・ディケッチというトルコの選手は射撃において必要な装備を着用することもなくラフな格好で、的に美しく弾を撃ち込むその優美な姿に感動し、また銀メダルという優秀な成績を収めたのにも関わらず謙虚な姿勢でいた彼にわたしは感銘を受けました。

・無課金おじさんが銀メダルだったことに感動した。努力が大切だということに気がついた。

【卓球】

・早田選手が手首を痛めているのに、一生懸命プレーをしたところが印象的です。「あと一歩」を踏み出してボールを返す姿に憧れを感じました。

・中国に最初のセットを取ったところ。また、最後まで全力で戦って結果は惜しくも負けてしまったけどとても感動した。

・卓球団体女子の決勝を見て、すべてのセットがあと一歩のところまで負けてしまったのが自分のことのように悔しかったのでとても印象に残っています。張本選手と早田選手のダブルスが息ぴったりでとても感動しました。世界王者である中国といい勝負をした日本は本当に誇りに思います！

・選手の名前はわからなかったけど、手をけがしていても卓球をしてすごいと思いました。特に、得点を入れたときの観客の歓声が「わーっ」と聞こえてきて感動しました。最後まで見れなかったからあやふやだけど、試合には勝っていたと思います。ほんとうに尊敬します。

・この競技は僕も白熱していました。怪我をしての出場だったり、日本が切磋琢磨して追い詰めていく姿が印象的で感銘しました。実際に女子では銀メダルを獲得し、中国を後一歩まで追い詰めました。この経験を通してスポーツは人の心まで動かせる素敵なものだと実感しました。

・早田ひな選手が前の試合で腕を怪我したのに、腕に痛み止めの注射打ったりして試合に出て銅メダルをゲットした場面。

・早田ひな選手が3位決定戦で、利き腕を痛めながら3位決定戦で勝ち、銅メダルを獲得したこと。

・日本の選手と他の国の選手と戦っている場面で、緊張の中打たれるボールの音は響いていて、見る人も緊張させた。

・平野美宇選手と韓国のシン・ユビン選手との試合を見ましたが、最終セットで緊迫した状況の中で平野選手が最後の最後でネットに引っかかってしまったのを観て、とてつもない緊張があるんだなと実感しました。

・早田ひな選手が腕を怪我しても諦めずに銅メダルを取っていてすごいなと思いました。諦めなければ、目標に届くときが来るのだと感動しました。

・卓球の選手が早く返してたりものすごい動きをしてたことがものすごく印象に残っていたり、凄いことが試合で繰り出せるのがものすごいと感じることができました。

【ブレیکن】

- ・今年からパリオリンピックの競技となったブレイクダンスでは、女子が初代金メダルを取ったことがすごいと思った。また今回のブレイクで世界中にダンサーが増える気がした。
- ・初めての競技で、選手全員が楽しそうに踊っているのが印象に残りました。日本選手が優勝が決まったとき、みんなで抱き合いながら喜んでいて、相手選手とも抱き合っていて、改めてオリンピックっていいなと思いました。
- ・どの選手もダンスが素晴らしくて、即興で音楽に合わせて踊れるのはすごいと思った。女子の初めての優勝が日本で感動した。自分もあんなふうに踊りたいと思った。
- ・ブレیکنおどっているときにみんなとてもうまくて、自分にはできないようなことを普通にやっていて、このオリンピックのためにたくさん練習してきていてすごいなと思った。
- ・始めてみた競技で国によって個性があって見て面白かったです。
- ・ブレیکنという新競技で、点数もつけづらい中、見事に女子ブレیکنで初代王者を獲得した日本の選手に感動した。途中で中国だったり強い選手がいても折れずにやり続けた凄さは、ブレیکنじゃなくても見習いたいと思った。
- ・ブレیکن女子の Ami 選手が優勝したのもうれしいし、男子だったら Hiro くんとかが負けてしまったけど、何よりもオリンピックを楽しんでいたことが心に残りました。
- ・アーバンスポーツならではの闘う選手同士の称え合い、高め合いが良く見れて面白かった。スポーツの面白さと平和の祭典を感じるオリンピックだった。

【スポーツクライミング】

- ・日本の選手がまだ若いのに、ギリギリのところまで登って、もうちょっとで金メダルのところで落ちてしまった。けれど自分も選手と同じ気持ちになったみたいに緊張しながら見ていました。今年は自分もなにかに挑戦してみたくなりました。
- ・この競技でどこの国かわからないけれど、とある選手がいいところで落ちてしまっただけでびっくりするムードが漂ってしまっていたのに、選手みんなが拍手などをしていていいなと思った。
- ・クライミング女子で、背が低く最初の岩を掴めずに失格になってしまった場面を見て、予選は通ることができたはずなのに、なぜそんな問題が起こってしまうのか疑問に思いました。
- ・安楽選手が予選1位通過したのに決勝トーナメントで最初の一回目で落ちて悔しそうにしていたけど、スタッフが優しく声をかけていてそのあと安楽選手が2位まで行けたところがものすごく感動した。
- ・跳ぶ瞬間、跳んだあと めっちゃすごい。
- ・森秋彩選手が他の選手が苦戦していた第3課題を完登していたところ。

【陸上競技】

- ・自分は陸上部で経験しているから、脚が自由に動かないとほんとに大変だと思うので、改めてすごいことだと尊敬しました。
- ・フルマラソンで、結局メダルは取れなかったが、最後まで抜こうと頑張っていたところ。「抜くぞ!」という選手の気持ちを感じた。
- ・自分は走り幅跳びを見ました。全員8メートルくらい飛んでいてとてもすごかったです。部活でも走り幅跳びをやっているのだから、とても参考になりました。
- ・女子マラソンで日本の選手が最初は順位が下の方でしたが、終盤から巻き返して、結果7位という好成績を残したとき、私は最初がどんなに低いときでも諦めず食らいついていけば、良い結果を残すことができると考えました。
- ・女子やり投げが印象に残った。今僕の家に住んでいる僕のいところに当たる大学生の母校が北口選手の母校である旭川東高校だから注目していた。
- ・陸上ではあまり良い結果は残せていなかったけど、すべての人が真剣に思いやりを持ってやっていたので、オリンピックというものはいいものだなと思いました。
- ・陸上競技の男子で後半次々と順位を上げていったことが印象に残っている。

【バドミントン】

- ・混合ダブルスでペアでお互いにフォローしながらラリーをつなげて、最後にスマッシュで決めていた場面。どんなコースでも諦めずにとりにいっているところがすごいと思った。
- ・混合ダブルスのわたがしペアが全力で今までの成果を出し切り、できるだけ良い結果で終われるようにと3位決定戦で銅メダルを取って二人で抱き合った場面に感動しました。諦めずにやり遂げることの大切さを学びました。

・バドミントンの女子ダブルスの3位決定戦がとっても白熱してて印象に残りました。ものすごく早いラリーをしたり、しだまつペアの息の合ったプレーがとってもすごかったです。相手の逆をついて点を取る場面がたくさんあって、自分は部活で卓球をしているけど、真似できそうなところはどんどん真似していきたいと思いました。

・私は、バドミントンを習っていて、もともと選手を知っていました。ワタガシペアという選手が引退してしまうけど「いいペアでここまでこれで、嬉しく思います」と言っていて、こういう選手になりたいと思いました。

・銅メダルをかけた試合でギリギリで日本が勝ったところはもうれつに感動した。

【フェンシング】

- ・団体戦で始めは日本が負けていたが、逆転して日本が勝ちメダルを取ったところをニュースで見た。
- ・ルールはよくわからなく見ていたんですけど、それでもチーム同士で喜び合ったり、喜びを表現していてよかった。
- ・補欠みただった人が決勝のときに、初めて試合に出されて勝利した場面。努力は報われるんだなと感じた。
- ・フェンシング男子個人エペでの戦いが迫力があり、感動しました。集中を切らさず最後まで相手の隙を見定め、金メダルを勝ち取っていてすごいなと思いました。
- ・予選からのスタートで始めからすごく緊張する場面が多くて、後半から強い人もいて印象に残りました。
- ・最後まであきらめずに泳いでいるところすごいなと思いました。
- ・人間はみんな繋がっているということ。

【サッカー】

- ・小久保玲央ブライアン選手がPKを止めたときにチーム全員が喜び、共に勝利を目指しているなと感じました。
- ・男女ともに優勝することはできなかったけれど、最後まで諦めないで戦う姿を見て感動しました。
- ・サッカー男子では惜しくも強敵スペインに負けてしまいましたが、強敵スペインに負けるもんかという思いが伝わってきて感動しました。女子のサッカーでは延長戦になってみんな疲れているなかで頑張っているのを見て感動しました。
- ・日本がスペインに0-3で負けたところ、予選では無失点で勝ち進んでいたから相手がスペインでも勝てると思っていた、現実はそうではなかった。上には上がいることを痛いほど感じた。負けて涙を流す選手に勇気ももらった。

【飛び込み】

- ・日本の玉井選手の飛び込みをたまたま見ていたが、とてもフォームが美しく、見ていて心地よい演技だったため。
- ・オリンピックはどれも感動し、何度も緊張、ハラハラする場面が多かったのですが、特に飛び込みは白熱していたと感じます。中国勢の完璧な着水に苦戦しながらも、なんとかしがみついた姿はとても感動しました。最後に出た大会ベスト記録はとても興奮しました。
- ・日本人の選手が完ぺきな演技をして会場がシンとなっていたのに、一瞬でみんなが感動していてすごいと思った。

【7人制ラグビー】

- ・7人制ラグビーで日本代表が最下位になったことが悲しかったです。
- ・7人制ラグビーは、男子は負けてしまったけど、いい試合をしていたので心に残った。

【水泳】

・競泳で白血病を克服した池江選手が一位になれなくとも最後まで頑張っていて泳ぎきっていた姿が印象に残りました。団体で協力して最後まで戦っている姿もすごいと思いました。

【レスリング】

- ・藤波選手がかっこよく可愛かったこと。家族で観戦しました。
- ・決勝で、相手の選手からの攻撃を躲しながら攻撃を仕掛けて勝ったところと、途中負けて金メダルは逃したけど銅メダルを取ったところ。

【自転車（トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX フリースタイル）】

・BMXを見て迫力と恐怖に驚きました。自転車でデコボコした道を走れるのはもちろんすごいし、さらにそれで一回転をしたり、ハンドルを何回転もしたりと、正直意味がわからなくてすごく面白かったです。

・塾から帰ってきてたまたま BMX を見て日本人選手だけではなく、国の代表の人ほぼ全員が失敗をしていなくて、解説者も「誰も失敗者が出なくて珍しい」といっていました。失敗しないぐらい練習をしていたんだなと思い、誰にも失敗はあるけど何事もなく失敗しないようにしようと思わせてくれた競技だと思えます。

【馬術】

・馬術は東京オリンピックのときにはあまり話題にならず、私はオリンピックの競技になっていることすら知りませんでした。馬術をリアルタイムでは見れませんでした。翌朝のテレビでメダルを取っていることを知ったのが印象に残っています。初老ジャパンとして歴史に名を刻んだ姿はとても格好良く感じました。

・馬術は、実力以外にも馬の状態や会場の土の状態など、運の要素も強く特に馬の状態は、外見だけでなく馬の感情も重要で、言葉が通じないため一番難しくいちばん重要なものです。それらの障害を乗り越えて92年ぶりのメダル。馬が好きなのでとても感動しました。

【ゴルフ】

・松山英樹が世界の人々と熱戦を繰り広げていた。また、銅メダルを取ったときの笑顔とやりきった感がすごかった。一流の人は違うなと感じた。

【テニス】

・ダニエル太郎選手がシードのキャスパー・ルード選手にすごくせってギリギリのところまでまけてしまったことです。理由はダニエル選手のプレーがすごく良くて自分もそのプレーを参考にして戦術が一個できたから。

【ビーチバレーボール】

・朝礼で校長先生も言っていた通り、音楽を流して選手を笑顔にした人はすごいと思ったから。

【近代五種】

・日本人初となるメダルをとり、それを見ていたのですが、とても種目の一つ一つがかっこよかったのでとても印象に残っています。